

第 31 回 電磁環境技術委員会議事録

日 時：平成 19 年 2 月 21 日（火）14:00～16:30

場 所：社団法人電気学会 第 1 会議室

出席者：河崎委員長（阪大），鈴木（東電），福永（NICT），富田（電中研），田村（関電）各 1 号委員，藤原（名工大），牧（松下電器・徳田代理）各 2 号委員
水野幹事（名工大），舟木幹事（京大）

提出資料：

| | |
|---------------------------------------|----|
| 第 30 回電磁環境技術委員会議事録（案） | 舟木 |
| EMC31-1 委員名簿 | 水野 |
| EMC31-2 平成 18 年度優秀論文発表賞受賞者 | 舟木 |
| EMC31-3 電磁環境技術委員会活動状況報告 | 水野 |
| EMC31-4 活動資金報告書 | 舟木 |
| EMC31-5 電磁界観測による地震予知技術調査専門委員会報告 | 堀井 |
| EMC31-6 高速電力線通信システムと EMC 委員会出版企画書 | 牧 |
| EMC31-7-1 電磁波・情報セキュリティ技術調査専門委員会設置趣意書案 | 福永 |
| EMC31-7-2 電磁波・情報セキュリティ技術調査専門委員会委員公募様式 | 福永 |
| EMC30-8 第 70 回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録 | 河崎 |

議事要旨：(以下発言委員名については敬称略)

1. 委員長の挨拶
運営委員会が一回無くなったため，技術委員会との同期が取れていない旨説明があった。
2. 第 30 回電磁環境技術委員会議事録の確認
舟木幹事より提出された第 30 回電磁環境技術委員会議事録の確認が行なわれ、承認された。
3. 委員会名簿の確認。
(ア) 委員交代の報告。関西電力上地委員に代わり田村委員が新たに就任された。着任の挨拶があった。
関電で中性線電流と地震関連の研究はしないのか？東電ではやっている。但し今年で終了。（河崎）
確認します。（田村）
どうなっているか，分かりません。（鈴木）
堀井先生が，電力会社の協力なしには研究を継続することができないとおっしゃっていた。東電の次は，中電にたのむ予定とのことである。（河崎）
(イ) 一号委員の任期は，一期三年，二期までであるため，奥村一号委員は，退任となる。幹事が退任届けを学会に提出する。
(ウ) 委員補充についての議論があった。
二号委員を増やさないと，活動が活発にならない。調査委員会を増やそう。（河崎）
ESD の委員会立ち上げを以前から嶺岸委員にお願いしている。（藤原）

ESD の委員会については、技術委員会設立時からの懸案であることから、早々に調査委員会を立ち上げられたい。(河崎)

ESD については、放電技術委員会との関係を期待している。(福永)

和田委員にも、三月で専攻長が終了するので、19 年度には委員会を立ち上げてもらう。(河崎)

4. EMC31-2 にもとづき、平成 18 年度優秀論文発表賞受賞者のうち、本委員会割り当て分について、東京学芸大鴨川氏を推薦した旨報告があった。なお、本件についてはメール審議でも異存はなかった。

5. EMC31-3 の電磁環境技術委員会活動状況報告について、各調査専門委員会の活動内容について確認を行い、加筆訂正を行った上で運営委員会に提出することになった。

6. EMC31-4 に基づき、活動資金を平成 19 年 1 月 17 日開催の電磁環境技術研究会において、会場費補助として使用した報告があった。

研究会は参加者 50 人程度となり、盛況に終わった。また、質疑応答も活発であった。学内使用でこの費用となっている。(河崎)

7. EMC31-5 にもとづき、電磁界観測による地震予知技術調査専門委員会の報告があった。次期委員会について、電磁理論技術委員会の、自然電磁波の委員会とバッティングしないか?(河崎)

あの委員会のやっていることは、電磁界理論ではなく、EMC に近い。(藤原)

実際やっている内容がかぶっている。(河崎)

技術委員会間で、殆ど内容がかぶっている調査委員会の例はない。(福永)

アクティブな人は、二つの委員会をアンドで活動しているので、そういうことになるのかもしれない。また、中性線電流の研究が立ち上がらないと、全国大会でのシンポジウムは、服部先生の委員会の協力が必要ではないか。

8. EMC31-6 に基づいて、高速電力線通信システムと EMC 委員会の報告書出版企画について報告があった。

設置趣意書どおり、単行本出版する。今年度の電気学会の出版計画に入れられないので、委託出版になるらしい。現在出版社を調整中。(オーム社か?) 著作権関係を出版社と調整する必要あり。(牧)

著作権関係の問題とは?(河崎)

報告書の内容は、既にどこかで発表した論文等がベースになっているため、それらの図表等の使用に係り発生する。(牧)

5000 部とは多いですね。(藤原) 書類毎に発行予定部数が 1500, 5000 と異なっているので、どちらが正しいのか確認する必要あり。

電気学科で出版できたら売れるのに・・・PLC に反対の人も買うでしょう。(福永)

次期委員会はどうするのか?(河崎)

特には聞いていない。徳田先生は、電力会社中心に何か考えられているということである。(牧)

徳田先生は IEC の委員長もされておられるし、PLC の問題はこれから続々と発生してくるので、次期委員会も徳田先生になんとか立ち上げてもらいましょう。(藤原)

売れそうな本を、みすみす逃してしまう出版委員会の姿勢に問題あり。次回の運営委員会でクレームをつけ、ぜひとも電気学会からの出版にしたい。(河崎)

(ア) EMC31-7に基づき、電磁波・情報セキュリティ技術調査専門委員会の設置について審議があった。

会員 80%のレギュレーションを満たしていないが大丈夫か(福永)

運営委員会では怒られた。但し、新しい分野なので、仕方ないと説明した。富田さん、この委員会ご興味ないですか?(河崎)

所内でアナウンスします。(富田)

9. EMC30-8の第70回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録関連
卓越技術データベースについて。

作成依頼をしている電中研赤城センター所長井上氏に電子メールで何度も連絡をしているが音沙汰がない。(舟木)

こちらからもお願いしたが、誠意ある回答が得られていない。電中研には研究データベースがあるので、やろうと思えばすぐできるはず。書面で通達する形式で連絡されたし。(富田)

10. 研究フォーラムについて

A部門役員会で、D部門の産業応用フォーラムの真似をした、研究フォーラムを行い、報告書の販促とすることが決まった。各技術委員会から、テーマ一件と担当者を選出することになった。本委員会からは、PLCをテーマとして供出。担当者は牧氏とすることになった。

(ア) 大会等について

A部門大会、テーマつきセッションは、不均一および過渡的な電磁界による体内誘導量評価技術調査専門委員会が担当することになった。

全国大会シンポジウムは、電磁波・情報セキュリティ技術調査専門委員会にお願いする事になった。

11. 次回は、平成19年4月18日10時～ 電気学会第3会議室

(当日午後「電磁界による体内誘導電界・電流の計算」講習会開催のため)

以上